

中国における「ピア・サポートトレーニング」の実践及び展望  
— 大学生への絵本を活用したプログラムの試みから —

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
人間形成・臨床教育クラスター  
鄭 平陽 Zheng Pingyang

現代の中国社会には、心理社会的な問題があり、人間関係が希薄になっていると言われている。人口が多いわりに進学や就職のチャンスが少なく、特に若者の人間関係は一緒にいて助け合う「仲間」ではなく、「戦場で戦う敵」と化してしまっている。また、中国の大学生は一人っ子が多いため、大学に入学するとともに親と離れて一人で生活していく中で、友人関係をなかなかうまく作れないという悩みが多いといわれている。このような現状を打開すべく、本研究では中国の蘇州大学の大学生を対象にして、「絵本を活用したピア・サポートトレーニング」プログラムの実践を行い、その結果に基づいて考察した。

まず、予備調査として、2013年9月11～13日の3日間に、蘇州大学の新生（男性42名、女性56名の計98名）を対象にして「絵本を活用したピア・サポートトレーニング」プログラムのワークショップを行い、実施後に自由記述方式で感想を募った。その結果、「居場所づくり」（29.8%）、「コミュニケーションスキルの向上」（25.0%）、「共感性を高める」（33.3%）という三つのカテゴリが抽出された（その他の記述は11.9%）。次に、この予備調査のデータに基づいて、本調査に用いる質問紙（全15項目、10件法）を作成した。

本調査は2014年10月18日に、蘇州大学の学生（男性1名、女性16名の計17名）を対象にして「絵本を活用したピア・サポートトレーニング」プログラムの実践し、上記の三つのカテゴリに関してトレーニングの前後で変化が見られるかどうか、要因分散分析を行った。その結果、調査時期の主効果が有意に認められた（ $F_{1,16}=1825.9$   $p<.01$ ）。これはトレーニング後の平均点がトレーニング前のそれよりも有意に高かったことを意味する。また、三つのカテゴリの主効果が有意であり（ $F_{2,32}=6.48$   $p<.01$ ）、この三つのカテゴリの間に交互作用は認められなかった。これらのことから、「絵本を活用したピア・サポートトレーニング」プログラムは、「居場所づくり」、「コミュニケーションスキルの向上」、「共感性を高める」という三つのカテゴリにおいて、その効果があることが確認された。

以上のことから、本研究で行った「ピア・サポートトレーニング」プログラムは、中国の大学生に必要なコミュニケーションスキルの向上に役立つとともに、絵本を活用したことで、大学生の心理的なよりどころを提供し、絵本の主人公に投映したり共感したりすることによって、日々の生活の中で溜まったストレスが緩和できたと考えられた。しかしながら、今回の研究で認められた効果は一時的なものである可能性は否めないため、今後どのようにして継続的な「ピア・サポート」を行っていくのが課題である。また、「ピア・サポート」の理念をどのように広げ、中国の風土に合った「ピア・サポートトレーニング」プログラムをどのように作成し、中国にまだ不足しているピア・サポートトレーナーをどのように増やしていくかも課題であろう。